

環境活動レポート

2011年版

(対象期間2011年1月1日～2011年12月31日)



株式会社 山中商会

〒323-0824 栃木県小山市雨ヶ谷新田71-37

[電話] 0285-27-5368

[FAX] 0285-27-9703

発行日 2012年 2月 15日

1、事業の概況

事業所名

株式会社山中商会

代表取締役社長

山中 理民

所在地

栃木県小山市雨ヶ谷新田71-37

環境管理責任者

伊沢 衛

連絡先

電話 0285-27-5368

FAX 0285-27-9703

事業内容

各種梱包資材、自動車用ワイヤーハーネス、
ハーネス用PVCテープの輸入販売

事業の規模

資本金 1,000万円

売上高 26.8億円 (H 23年度)

社員数 24名

敷地面積 3,960㎡

延床面積 2,300㎡

対象範囲

当社は全ての組織、活動を対象としている。

2、環境方針

環境方針

《基本理念》

山中商会は、豊かな未来社会の実現に向けて、地域社会と人に優しい事業活動を営み、人の健康や環境保護に努めます。

《基本方針》

山中商会は、当社の環境理念に基づいて、会社の全ての活動に適用する活動方針を策定する。

- ① 当社が取り扱う製品については、生産→物流→使用→廃却に至る製品のライフサイクルの各段階において、環境に及ぼす影響と資源保護に配慮するための環境保全技術の
- ② 国や地方公共団体の環境に関連する法規制を遵守することはもとより、自主的な規制により環境への負荷の低減に務めます。
- ③ 山中商会が取扱う製品については、製品含有化学物質管理規定に基づき法規制及び顧客要求を遵守する。
- ④ 当社基本方針は、年/一回見直しを実施します。
- ⑤ 当社経営者、社員一丸となって環境意識の向上を図ると共に、関連する様々な機関にも協力を呼び掛け、また地域社会との連携を密にとり、環境保全活動を推進します。
- ⑥ 重点的に取組む事項
 - 1、二酸化炭素排出量の削減 (省エネルギー活動)
 - 2、廃棄物排出量の削減 (ゴミの分別及びリサイクル運動の実施)
 - 3、排水量の削減 (水の使用方法の改善)
 - 4、エコ活動への参加 (地域清掃ボランティアへの積極参加及び社内緑化の推進)

2011年1月 6日 改定

株式会社 山中商会

代表取締役社長 山中 理民

3、環境目標

2010年を基準として売上高あたりで算出2013年までの目標は以下の通りです。

取組事項	2010年基準 (H 22年)	2011年目標 (H23年)	2012年目標 (H24年)	2013年目標 (H25年)
売上高(億)あたりの CO2総排出量(Kg-CO2) 原単位	114,879.1(26) 4,418.4	127,251.0(30) (△4.0%) 4,241.7	135,027.2(32) (△4.5%) 4,219.6	142,715.0(34) (△5.0%) 4,197.5
廃棄物排出量 削減	1,021.2Kg	1,000.8Kg (△2.0%)	980.4Kg (△4.0%)	970.1Kg (△5.0%)
水使用量の削減	98m3	97m3	96m3	95m3
グリーン購入 の推進	対象品目 7品目	10品目	13品目	16品目
環境配慮製品ソフミン	40箱	150箱	200箱	300箱

* 使用した電気の排出係数 0.384

* 当社は化学物質の使用はない

4、環境活動計画の内容

4-1 目標を達成するための取り組み

事務所内の取り組み

- ・ 玄関出入り口の二重扉化
- ・ エアコンの適正温度設定(冷房25度、暖房22度)
- ・ トイレ未使用時の照明消灯
- ・ 長時間離席時のパソコン本体の電源OFF
- ・ 昼休みの消灯を実施する
- ・ トイレの一回流しの励行
- ・ メーカーから客先への直送の拡大
- ・ コピー用紙裏面利用のPR
- ・ 使用済みコピー用紙の再利用(シュレッダー後、製品出荷時の緩衝材として利用)
- ・ 仕入先への簡易梱包出荷を依頼しゴミの減量を図る

倉庫内での取り組み

- ・ 業後翌日の配送ルートの確認
- ・ 倉庫不在時の消灯の厳守
- ・ フォークリフトの無駄なアイドリングを止める

社外での取り組み

- ・ 車輛の運転に際しては、安全に省エネ運転しアイドリングストップの奨励

4-2 その他の取り組み

グリーン購入への取組

- ・ 再利用、詰め替え可能消耗品の優先利用、その他対象製品等の調査
- ・ 定期的な購入状況の確認

環境配慮製品(ソフミン)の販売促進

- ・ PR活動及びトップセールスの展開
- ・ ソフミンの海外拡販の推進

廃棄物排出量の把握

- ・ 一般廃棄物の計量(日々計量、月次集計)

社内環境教育の一環として、環境関連の展示会・セミナー・講習会などに参加
また他社の環境への取り組みを見学

車両を順じ低燃費車への切替を行う

過剰梱包の廃止(購入先へ依頼)

5、環境目標の実績

取組事項	2010年基準 (H 22年)	2011年目標 (H 23年)	2011年実績 (H 23年)	達成状況
売上高(億)あたりの CO2総排出量(Kg-CO2) 原単位	114,879.1(26) 4,418.4	127,251.0(30) (△4.0%) 4,241.7	115,404.8(27) (+0.8%) 4,274.3	未達成
廃棄物排出量の 削減	1,021.2Kg	1,000.8Kg (△2.0%)	1,135.1Kg (+11.2%)	未達成
水使用量の削減	98m3	97m3	96m3	達成
グリーン購入(点)	対象品目 7品目	10品目	10品目	達成
環境配慮製品(ソフミン)	40箱	150箱	120箱	未達成

* 使用した電気の排出係数は東京電力の 0.384

6、環境活動計画の取組結果とその評価、次年度の取組内容

6-1 環境活動計画の取組結果とその評価

- ・23年度も継続して活動を行っているのは評価出来るが、特に目立つ改善等が見受けられない。今後は改善意識を高めながら日常業務に取り組みたい。
- ・東北大震災後の電力節減を教訓とし、今後の電力使用量削減に生かしたい。
- ・今回の震災では非難訓練が十分に生かされていない事が分かりました、火災だけでなくあらゆる事態を想定して毎年訓練を実施する必要がある。
- ・前年度では管理者不在にも関わらず整理整頓が出来評価できる。
- ・低減率においては、そこそこ成果を上げて来ているが、管理者主導と言う感がまだまだ見受けられるので、次年度では各担当の積極的な活動を期待したい。
- ・グリーン調達においても客先からの要望だけでなく自からPRを行い販売網を広げる。
- ・ソフミンにおいては伸びが悪いので住友電装さんと協力の下カーメーカーへのPRが必要。

環境活動の進め方に対する評価

- ・環境活動を地道に続け成果を上げてきているが、今後は重点志向的な考え方で3ヶ月、6ヶ月と言った期間でスローガンを掲げ重点的に取組みをしてはどうか。

社内環境教育の取組みの評価

- ・社内教育にも行き詰まりが感じられるので、営業部門に協力依頼し客先での環境活動などを紹介し教育の一環としてはどうか。
- ・商品展示会等に参加した人からエコ製品の紹介などを教育時に取り入れてはどうか。

6-2 次年度の取組内容

- ・活動計画自体に無理の有る計画と思われないがなかなか100%の実行がされていないので(売上げを伸ばす努力)をし更に改善をしていく。
- ・今後各項目において全員が習慣づく様な教育及び指導に取り組んでいく。
- ・当社での特徴あるエコ21にするにはどのような方向に進めるか、若い世代と検討して行く必要がある。
- ・グリーン調達、グリーン購入を一層推進して行く。
- ・自社の扱う製品・サービスに関してはソフミンの販売促進

7、環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無

7-1 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果

法律	対象	遵守状況
廃棄物処理法	一般廃棄物（可燃物、段ボール）	適合（小山市のルールに従い排出している）
自動車リサイクル法	4t車1台、2t車2台、バン2台、	適合（ステッカー確認済）
家電リサイクル法	事務小型機械、（パソコン、ポット）	適合
化学物質の管理ガイドライン（ユーザーからの）	各種梱包資材、ワイヤーハーネス、PVCテープ	適合（有害物質の含有なし）

7-2 違反、訴訟等の有無

平成23年12月に遵守評価をした結果、環境関連法規制の違反はありません。

また関係機関からの指摘もありません。

同様に訴訟等もありませんでした。

8、代表者による全体評価と見直しの結果

- ・環境方針は、現状の方針を継続する。
- ・全体的には緩やかであるが低減されているので評価されるが、2011年以降の取組みに一工夫がないとCO2の削減が難しくなるであろう。
- ・震災後の節電経験を生かし今後の電力使用量削減につなげて行けるようにしたい。
- ・2012年度においては、営業人員を増やす計画がある為車の増車が見込まれる、それらを踏まえ対応策を打ち出してほしい。
- ・在庫が増大した時の作業効率を良くする為にも各部門とのすり合わせを綿密に行なっていく必要がある。
- ・今後も環境管理者と営業部門との連携を密にとり、客先に対しても我々の活動をPRしながら指導を受けて行く事を考えなければならない。